

第 1 回検討会における主なご指摘

●調査方法

- ・ 客観性をより担保する観点からも、調査的監督の方法ではなく、統計調査として行うほうが良いのではないか。

●調査対象

- ・ 事業場だけではなく、事業場で働いている労働者にも調査票を配るよう設計することが望ましいのではないか。

●抽出方法

<事業場>

- ・ まず裁量労働制で働いている方が多くいる事業場からサンプルを抽出するのが良いのではないか。
- ・ 一般労働者との比較の観点から、裁量労働制を導入していない事業場からもサンプルを抽出するのがよいのではないか。その際、裁量労働制を導入している事業場となるべく近い属性の事業場を抽出してマッチングする工夫が必要ではないか。
- ・ 一般事業場については、裁量労働制導入事業場の地域、業種区分、労働者数等を層別の要因に用いて、層化無作為抽出を行うのが良いのではないか。

<労働者>

- ・ 事業場を通じて労働者に調査票を配布してもらう際、一番多く働いているグループから抽出する方法や、年齢・性別といった比率で選ぶ方法などがある。今後議論が必要ではないか。
- ・ 最初から年齢、性別等で層別して配ってもらうのは良い方法だが、そこまで事業場にやってもらうのは、負担も大きい。
- ・ 裁量労働制が適用されている人の業種、規模、勤続年数、職種、仕事内容ぐらいいはある程度そろえた上で、裁量労働制でない人たちと比べないと厳密には比較にならないのではないか。労働者の属性に関しても考えた方がよいのではないか。
- ・ 調査票を配布する労働者の属性を指定すればするほど、回収率が下がる可能性もあるので、議論が必要ではないか。

- ・ 配る段階で細かく指定し過ぎると、十分なサンプルが集まらないという問題があるのではないか。出来るだけランダムに配ってもらい、集まってきたもので可能な限り統計的に属性をマッチングした上で比較する手法が良いのではないか。
- ・ 事業場内での無作為抽出が必要ではないか。例えば、ランダムに割り当てた月日に一番近い誕生日の人を選んでもらうなど、できるだけランダムに労働者を選ぶ方法を議論することが必要ではないか。
- ・ 労働者を抽出する段階で層化してしまうと実査が難しくなるという指摘があったが、どこまでをサンプリングでやり、どこからは後の統計処理でやるのかということで考え方の整理ができるのではないか。
- ・ 職種に関する情報は非常に重要であり、サンプリングのときにどうすべきか考える必要があるのではないか。現在、裁量労働制で働いている方は、ほとんどが専門的な方なので、一般労働者とうまくマッチすることができるのかどうかはよく考える必要があるのではないか。
- ・ 最初に裁量労働制で働いている人だけをサンプルとして抽出し、それに非常に似た属性の人を別の調査で一般労働者としてとってくるという調査をするのか、それとも一斉にまいてしまって、できる限りその中で工夫するのか、そのあたりを考える必要があるのではないか。

●設問設計

- ・ 選択肢や付問は、様々な意見を偏りなく拾えるよう、また、政策誘導的との疑念を招かないよう、価値中立的に設計すべきではないか。

●調査項目

- ・ 次のような事項は、調査項目として含めるべきではないか。
 - 裁量労働制の適用者と非適用者の差異（制度導入前後で労働時間、健康面、働き方などがどう変わったか）
 - 特別の手当だけでなく、賃金総額
 - 労働時間の状況の把握方法（事業場と労働者双方に対する設問）
 - 働く時間帯や深夜労働の頻度
 - 勤続年数だけでなく、職務の経験年数
 - 労使委員会の運用状況（選出、構成、指名方法等の実態）
 - 本人同意の手続、同意の撤回の手続・実態
 - 仕事の中身（職業、職種分類を大分類だけでなく把握しておかないと、後々

比較できなくなってしまうとの観点)

➤ 本当に裁量労働制にふさわしい働き方をしているかの実態が分かる項目

- ・ 個人属性は、調査負担も考慮しながら把握すべきではないか。
- ・ 調査項目が多すぎて回答者の負担になると回収率が下がってしまうのではないか。調査項目は JILPT 調査よりはかなり減らした方が良いのではないか。

●回収率

- ・ 公的統計としての位置付けを踏まえると、できる限り回収率を上げる努力をすべきではないか。
- ・ 事業場を通じて回収すればもっと回収率は上がるのではないかと思うが、これには正負両面あるのではないか。
- ・ 事業場に対して一定期間後に督促をかけることは一般的。この場合、15%だった回収率が 20%に上がるというくらいのはできると思うが、事業場経由で従業員に配る方法の場合、従業員への督促は難しいか。また、事業場経由で回収する方法は、かえって回収率が下がるのではないか。

●集計方法

- ・ エクセルなどでそのままデータを操作すると再現性がなくなってしまうので、再現性があるような形で、生のデータから公表する数字までのデータ整理を確実にすることが重要。